

○平成27年度の第1学期が始まりました。

新学期とともに寒が戻ったようですが、体調を崩さぬよう気をつけてください。

○1年生は、昨日が入学式でしたが、これから3年間、どのような生活を送ろうかと、夢を膨らませていることと思います。

いままでとは違って、いろいろな中学から、新しい顔ぶれが集まっています。

はじめは、あまり気負わずに、人間関係を拡大し、居心地のよい環境をつくり、高校生活の基盤をつくることから始めてください。

また、自分の価値観だけに縛られずに、個人個人の違いを尊重し、互いを高めあえる関係を作っていくてください。焦らず着実に歩むことが大切です。

○2、3年生の皆さん。有意義な春休みを送ることができましたか。早いもので、もう、1年、あるいは2年が終わってしまいました。

2年生は、勉強や部活動に、学校の中心的存在となってやっていく1年となるはずです。修学旅行など大きな行事もあります。特に、半年後には、皆さんが中心となって部活や生徒行事を回しているはずです。半年から1年後に活躍している自分の姿を頭に描いて、じっくりと腰を据えて学校生活に向き合っていくてください。

3年生は、卒業まで、もう1年を切っています。3月の修業式で見た皆さんの姿、表情から意識が高まっていることが、よく分かります。まず、皆さんには、1、2年生の尊敬すべき目標として、本校を牽引して行ってほしいと思います。学校祭までに、自分たちの持てるものを、後輩達に引き継いでいく。勉強に向かう姿勢、行事や委員会活動、部活動などあらゆる面で、行動する姿を後輩の目に焼き付けてください。

○勉強の方は、今からスパートをかけていくことになるでしょう。しかし、昨年も同じ事を言いましたが、焦って、むやみに色々な事に手を出したり、幅広く何でも知識を吸収しようというのは、少し違うように思います。

○これは、全学年に共通することですが、知識だけを暗記するのが勉強で

はありません。これでは、試験問題を解くために無限に暗記しなくてはなりませんから。難しいことは、よく考えて、自分の言葉でやさしく言い換えてみる。やさしいことは、それを疑い、よく吟味して深めてみる。そのようにして物事の本質、原理原則をよりよく理解して自分のものにしていくことが、勉強のやり方の基礎基本であり、遠回りのようで実は近道です。そして、これは、勉強だけでなく、スポーツや文化活動でも当てはまることだと思います。

限られた時間の中で、脇目もふらずに一心にやることは大切ですが、焦らずに着実に力をつけていってください。

○次に、本日の中心の話題となりますが、今年度、皆さんが生活していく上で、大切にしてほしいこと、それは、生徒指標のひとつ目にある「自主自律」という価値観です。

○教育の大きな目標のひとつは、「自立(自分で立つ)」に導き促すことです。自立には、経済的な自立、精神的な自立があります。高校生が経済的に自立はできませんので、自分でできる所から自立を目指していくことになります。

そして、自立の手段として、大切なのが、「自主」であり「自律(自分で律する)」だと思います。

○本校の良さは、生徒の皆さんが、先生を信じて指導についてくる。先生もそれに応えて、時間や手間を惜しまずに親身になって面倒をみる、という所にあります。そのようにして、入学したときよりも、大きく学力を伸ばして卒業させているすばらしい学校だと思います。

○しかし、皆さんの潜在力はまだまだあるはずです。その力を更に引き出すためにキーとなるのが、自主自律です。

何か期待された時に手を挙げようとか、電車で席を譲った方がいいかな、とためらう場面ってよくありますね。そんなときに、勇気を出して自分からやってみる。また、先生にどうしたらいいか聞く前に、「私はこう考えますがどうでしょうか」と付け加えてみる、こういう事の積み重ねが、自主性、自律性を高めることに繋がります。

○私は、例えば「人の見ていないところで落ちているゴミを拾う」というような、ちょっとしたことができるかどうか、とても大切なことに思えます。多くの人

が拾った方が良くとは思いますが。そこから一歩踏み出すには主体的な勇気が必要ですし、自分がやると決めたことは誰にも褒められなくてもやりきる、これは正に自分を律することであります。

そして、こういうことができるかどうか、これが、勝負の肝心なところで頑張り抜けるかの分かれ目になるんですね。

○そして、もうひとつ。2、3年生には、これに関連して、ひとつ宿題を出しておきましたね。1年生は何のことか分かりませんから、簡単に復習してから聞きます。

○修業式で、私は、自主性、自律性を高めるヒントとして、「周りに目を向ける、気を使う、周りを思いやることから始めると良い」と言いました。

なぜ、周りなのか。

幼児は、大抵自分のことで精一杯ですから自分のことしか考えません。自立とはかけ離れた状態です。

それが周りに注意が働くようになっていくと、周りのことも自分のことというように意識の範囲が広がります。すると、自分は何をすべきか、それまでより広い視点に立って見えるようになる。それが、成長であり、真の自立に繋がるというお話をしました。

○そこで、宿題ですが、4月から皆さんは「周りに対して何をやるか、自分に対して何をやるか」を考えてくるようにという事でした。

人だけでなく、物に対して、校内だけではなく、家族や地域に対してでもかまいません。ただし「人に親切にする、勉強を頑張る」ではなく、「部活の最後に、物が片づいているかを必ず確認する、英語の重要構文を毎日10個覚える、タイムマネジメントノートを1年間自主的に書き続ける」というように、できるだけ具体的なレベルでお願いします。

○さあ、いかがでしょうか。

(2年生の小林君ありがとうございました)

○ところで、皆さんは、ラグビーの精神としてよく紹介される「One for all , All for one」という言葉を知っていますか。

「一人はみんなのために みんなは一人のために」と訳され、チームプレーを大切にする言葉として紹介されてきましたが、元日本代表でスタンドオフ

の名手、ミスター・ラグビーと呼ばれた平尾誠二さんは、違うと言います。

○もともと、デュマの「三銃士」で出てくるようです。原典はフランス語のはずですから、その英訳をさらに和訳したわけですが、「One for all(一人はみんなのために)」は OK です。 3

次の「All for one」の「one」は”一人”ではなく”Victory”を指すのだそうです。不定代名詞としての「One」ですね。

○ですから、訳は、「一人はみんなのために みんなは勝利のために」となります。

どんな優秀な選手でも一人でできることには限界があります。しかし、チームになれば 1+1 が3にも4にもなる。これがチームプレイの素晴らしいところです。

しかし、それには「一人ひとりが自立した存在である」ことが前提となります。溺れかかったときに、泳げない人は他人を助けることはできません。

チームの一員として他のメンバーに甘えたり、寄りかかったりしない、自立した集団であることが大切である、ということのようです。

○私たち、教員は、「All for one」”みんなで一人を育てる”つもりでやっています。しかし、皆さんは、皆さんそれぞれの”Victory”を目指して、自立して行けるよう、小さなことから積み重ねていってください。

○離任式で歌った、校歌1番の歌詞にも、”独立自主の気概もて”とありました。

「自主自律」今年は、これをひとつのテーマとして、皆さんも取り組んでみてください。